

# 「もう一段」の休市増を

**ハングナンバーCHECK**

過去の記事から注目のお話

(2024年4月14日付)

農業問題で大きな話題でした。2025年問題をどう存じでしょうか。2025年、約800万人の「団塊の世代」が75歳以上になることで、国民の5人に1人が75歳以上という「超高齢化社会」に突入します。「2025年問題」とは、日本が超高齢化社会になるとでもたらされる、様々な社会問題のことです。

企業活動の観点で2025年問題を考えると、労働者の高齢化、労働力不足を想像する方が多いかもしれません。もちろんそれらも問題ですが、2025年問題の中でもより注目されているのが「介護離職」「ビジネスケアラー」です。

「介護離職」とはその名の通り、介護を理由に離職する人を指します。離職者全体で見ると介護離職の割合は大きくなりませんが、介護離職者は年間10万人程度とされています。近年、コロナ禍やホームヘルパーの人手不足等を理由に介護事業所の倒産も増えています。

前回は、災害時の備えを取上げました。今年入り、各地で大きめの地震が頻発しています。前回の記事が取組みの一歩になれば幸いです。さて、今回からは話題を変え、2回にわたり「介護と仕事の両立」を解説します。

\* \* \*

この数年「物流2024年問題」が話題でしたが、皆さんは「2025年問題」をどう存じでしょうか。

2025年問題は、「介護離職」の防止が主な課題です。この問題がどういったものかは、誰にもわかりません。

介護をしている人の主な年齢は40~50代と言われています。ベテランの域に入り、部下がいる方や役職者も多い働き盛りの年代です。介護は言い出しがちで、働きながら介護をしている人は364万人を超えており、これは介護をしている人の実に半数以上です。

さて、介護の大変なところは、「始まりも終わりも読めない」ことです。今日は無関係でも明日急に当事者になることもありますし、介護が1年で終る手立てとも言えます。

では、働き盛り世代の急な離職を防ぐため、企業では何ができるのでしょうか。そこで次回は、介護と仕事を両立支援のための具体的な制度を紹介します。(月1回掲載)

新里ねぎ (17年5月登録)

◆生産地

栃木県宇都宮市新里町 (にっさとまち)

## 働き方改革のポイント

いどり社会保険労務士事務所  
代表 内川真彩美 氏

ており、介護の受け皿も十分ではありません。介護の担い手は「家族・親族」が約6割を占めるとの調査結果も出ており、家族への負担が高くなっていることも介護離職が発生する背景の一つです。

働きながらの介護相談できず突然「離職」に

相談できず突然「離職」になりました。すると、従業員の約1割が既に何らかの介護をしながら働いています。さらに約3割が「5年以内を目途に家族の介護が発生する可能性がある」と回答しました。隠れ介護の実態をよく表している事例です。

介護と仕事の両立が難しくなると、介護離職へと繋がります。介護をしながら働く人は今後も増加していくでしょうから、介護と仕事が両立できる段階での支援、そして介護をしながら働く従業員にいかに早く気付けるかこそが、働き盛り世代の急な離職を防ぐ手立てとも言えます。

## 「ビジネスケアラー」が増加 「働き盛り世代」に可能性

読者からのご相談受付中!

いどり社会保険労務士事務所 代表  
内川 真彩美 氏

介護支援制度の説明から民間保険の紹介まで。介護との両立支援は事務所ホームページ (<https://www.irodori-sr.com>) よりお問い合わせください。

「うちの会社ではそんな話聞かない」と思つた方は要注意です。現在、「隠れ介護」も問題視されています。隠れ介護とは、「周囲には伝えていないが実は介護をしている状態のことです。以前顧問先で「うちにはまだ介護の問題はない」と考えていた

日々の確保は人材確保の大前提だ。

水曜休市は定着化産地や買参人も理解が増えるのは反対」ですが、「自身も高齢化が進む水曜休市に一息入れる」とができるメリットがある、「給食対応も卸仲卸との連携でクリアしている」という。また、「水曜は休み」というイメージ

る社長がいたため、「では本当に関係がないか、まずは現状を確認してみましょう」と介護に関する匿名アンケートを全従業員にお願いしたことがあります。すると、従業員の約1割が

る。果実の緑色、果汁歩合等の品質を保ちつつ周年の供給体制を確立。

### ◆地域との結びつき

大分県では江戸時代から、かぼすが栽培されており、古くは薬用として重宝されたと言われている。県による栽培奨励や1979年に大

から、塩を一切使わない製法が発達。300年以上続く木曽地域の伝統食。

